企業訪問
資源循環レポート
サーラeパワー（株）

創業の地で再生エネルギーのトップランナーでありたい

サーラeパワー（株）

サーラeパワー（株）統括管理部 取締役・部長 荘司敏彦氏

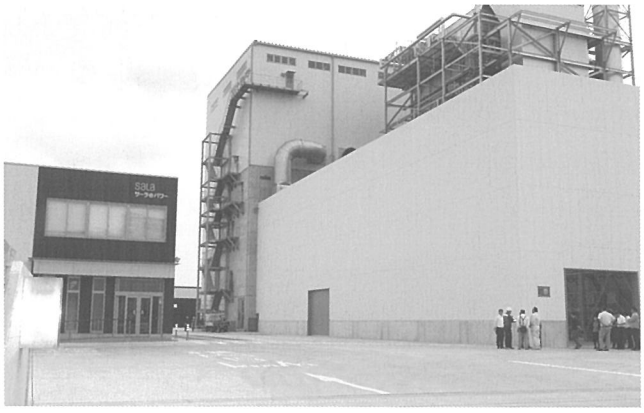
明治４２年サーラグループの起源となった「豊橋瓦斯（株）」が創立され、昭和１８年「中部ガス（株）」、昭和３６年「中部液化ガス（株）」（現・ガステックサービス（株））を設立。昭和２０年の空襲で壊滅状態となった豊橋と浜松は一時的にガスの供給を停止、復旧作業は困難を極めたが約１年かけてガスの供給を再開、戦後の地域の再建復興に大きく寄与。また、昭和３４年以降の石炭から石油へのエネルギー源の大転換期を見事に対応するなど、日本の高度経済成長と共に発展を遂げた。

その後、液化ガス部門の独立、ＬＰガス配送を柱とした自動車整備・販売、住宅販売、物流事業等、事業を次々と創設し、平成１４年「（株）サーラコーポレーション」を設立。令和元年に創立１１０周年を迎え、グループ再編によりグループを一体化し、暮らしやビジネスを総合的にサポート。

令和元年７月、東三河では初めての温室効果ガスの抑制にもつながる木質バイオマス発電所の本稼働を開始、再生エネルギーへの取り組みについて、同社荘司取締役にお話しを伺いました。

■発電事業

これまでの都市ガス・ＬＰガスの供給に加え、電力の自由化になるということから、電力の発電事業にも取り組み、電力販売まで一貫して手掛ける体制を整え、地域社会ならびにお客様の信頼に応えられる発電事業を構築しました。



サーラeパワー（株）東三河バイオマス発電所

■代表者／代表取締役 藤田尚弘

■所在地／愛知県豊橋市新西浜町2-10

TEL 0532-34-2722　FAX 0532-31-2001

■木質バイオマス発電

東南アジアから輸入したＰＫＳ（パーム椰子殻）を主力燃料とし、奥三河や遠州地区から排出される木材のチップ（間伐材等の未利用材及び製材端等の一般木材）と混焼する際に出る熱を利用して蒸気を使って発電をします。

・年間燃料使用料　ＰＫＳ：約１４万ｔ
　　未利用材等：約１万ｔ

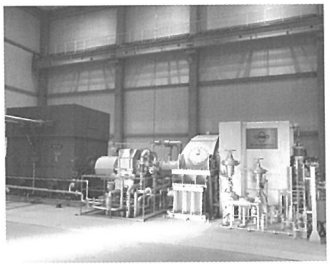
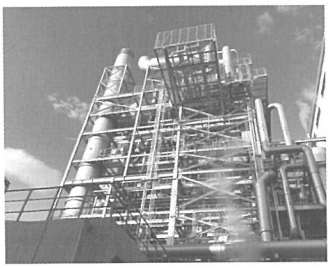
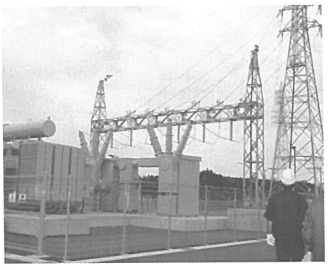
天候に左右されず温室効果ガスの抑制にもつながるクリーンで安定した電源であることに加えて、奥三河や遠州地区などの地元と連携し、地域の森林資源の適正な保護を目指します。

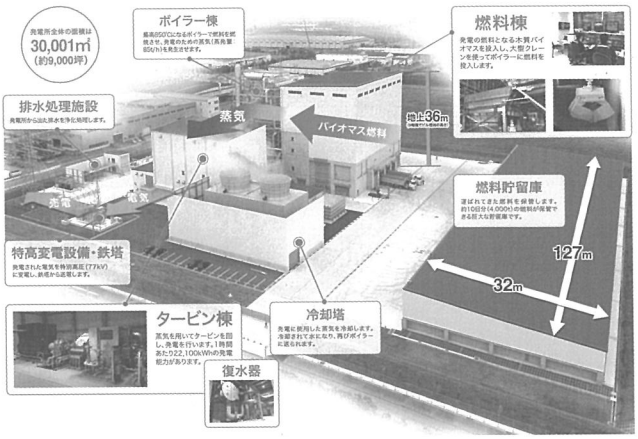
サーラの木質バイオマス発電所で発電した電力は、ＦＩＴ（固定価格買取制度）を活用して２０年間にわたり電力を販売していきます。

■発電所概要

施設面積：約３万㎡
発電能力：２２，１００ｋＷ
　　一般家庭の約４万世帯分
要　　員：１７名

「燃料棟」にはＰＫＳと未利用材チップが格納され、中央制御装置室（燃料棟）にて燃料の送り出し調整やボイラー温度や燃焼状態、タービンの回転数、発電量など中央制御のコンピュータによって自動化されている。２４時間リアルタイムの常時監視と制御で、設備全体の安全性や電力の安定供給を図っています。



「ボイラー棟」は騒音など周辺環境に配慮した燃焼プラントです。燃料のＰＫＳと未利用材は、発熱量に差があるため均一化されて約８５０℃の高温で完全燃焼する。

「タービン棟」ではボイラーで作られた高温高圧の蒸気によりタービンを高速回転させて発電し電気を作っています。

「冷却塔」では蒸気タービンで使用した蒸気は冷却塔で冷却し、蒸気は水になり（復水）、再びボイラーに送られる。

「特高変電設備・鉄塔」は発電機で作られた電気の送電を可能にするため、発電所敷地内にある特高変電設備において、電圧６，６００Ｖから７７，０００Ｖに昇圧される。その後、電気は隣接された小型鉄塔を経て中部電力に送られます。

■周辺への環境保全

工場敷地内の緑地面積は２０％以上という工場立地法に準じ、同発電所は周辺地域と調和できるよう緑化を整備している。発電プラントからの排ガスや騒音・振動など法令に遵守した対策を講じ、周辺地域の環境保全に万全を図っています。

■ＳＤＧｓ

地域の未利用材の活用による地域社会との連携を含め、同発電所は２０３０年を年限とする国際目標であるＳＤＧｓのアクションプランのひとつに掲げられている、強靭かつ環境に優しい循環型社会構築に合致するものと捉えています。

このようなことから地域発展およびカーボンニュートラルな電源として地域に貢献しています。